

青葉まつり

400年の時を超え「ルーツ」初見参

堺のすずめ杜の都舞う



エネルギーなすずめ踊りを繰り広げる堺市のグループ
20日、仙台市青葉区の勾当台公園市民広場

「市民交流 これからも」

仙台・青葉まつりが開幕した21日、祭典の華を飾った「すずめ踊りコンテスト」に、大阪府堺市のグループが初めて参加し、熱気あふれる踊りを披露した。すずめ踊りのルーツは、江戸時代に堺の石工が仙台で披露した即興の踊りとされる。約400年の時を超えて杜(もり)の都で舞った堺のすずめたちに、市民から盛んな拍手が送られた。

(一面に関連記事)

参加したのは、堺市の「泉州堺すずめ組」を中心に編成した「泉州堺(すずめ)連合」の90人。踊り手は幼児から七十代まで幅広く、若草色の法被姿で定禅寺通などで力強く踊った。堺の石工は一六〇三年、仙台北城完成を祝う宴席で踊ったと伝えられる。二〇〇三年、「みちのくYOSAKOIまつり」に参加した堺市のグループがこの縁を知り、仙台市のすずめ踊りチームと交流を重ねてきた。昨年十月、堺市であった「堺まつり」には、仙台市のすずめ踊りグループ八十五人が参加。今年一月には「堺すずめ踊り普及会」が発足し、青葉まつりに参加を目指してき

た。普及会副会長で、泉州堺連合組頭の中島豊さん(左)は「堺のすずめ踊りを仙台の皆さんに見てほしい。これから一層、市民交流を深めたい」と話した。踊りを披露した森山百恵さん(右)は「この日に向けて練習してきました。緊張しましたが、とても楽しかった」と笑顔を見せた。青葉まつり協賛会の松尾信仁実行委員長(左)は「堺市民のすずめ踊りへの意気込みが伝わってきた。共に踊りの伝統を守り、広めていきたい」と話していた。

マスケット

愛称決まる

仙台・青葉まつりに誕生したスズメのマスケットキャラクター「写真」の愛称を募集していた青葉まつり協賛会は二十日、開業に合わせて愛称を「すずのすけ」に決めた。名付け親は仙台市太白区の鹿野小六、宮田奈生子さん(二)。応募の百四十四通から審査で選ばれ、表彰式で賞金などが贈られた。宮田さんは、ス

ズメの男の子だからと思



い、ぱつと思いつきました」と話していた。事務局長が名字と漢字表記を加え、正式名称を「青葉雀之助」とした。すずのすけは法被を着て扇子を持ち「すずめ踊りとおはやしを学んでいる」という設定。会場では早速、子どもたちの人気を集めた。

ボク「すずのすけ」よろしく!